



写真-1 バスからの見学(佐野専務の解説)

(1) 臨空柏原地区

苫東地域の千歳市と隣接する丘陵地に位置し、新千歳空港ターミナルから車で 20 分の距離であり、自動車関連産業をはじめとする製造業、食関連産業、エネルギー関連産業、物流関連産業、リサイクル関連産業など様々な企業が立地しています。

最近の主な立地企業としては、(株)ベンチャーウイスキーの蒸留所、(株)カネカのゼロエミッション医療機器工場などが有ります。さらにソフトバンクが、国内最大級の再エネ 100%使用のグリーンデータセンターの建設を始めています。この地域では、工場と隣接して多くの太陽光パネルが建設されており、工場で消費する電力のグリーンエネルギー調達 が想像以上に進んでいました。

(2) 臨海北地区

日高自動車道、国道 235 号線、道道上厚真苫小牧線に囲まれた好適地です。いすゞエンジン製造北海道(株)、寒地土木研究所などの研究施設が立地していました。

(3) 臨海東地区

苫東地域発足時より、大規模な石油備蓄基地として北海道石油共同備蓄(株)が立地しています。最近では、循環産業拠点構想に基づく基盤整備により、(株)マテックをはじめとするリサイクル関連産業の集積地となっていました。

(4) 臨海臨港地区

大型船(10 万 t クラス)の入出港が可能な水域と平坦で広大な後背地があり、苫東厚真火力発電所や物流施設などが立地しています。国際コンテナター

ミナルや新日本海フェリー航路が開設されているほか、2020 年に稼働した道内最大級の温度管理型冷凍冷蔵倉庫を中心とした食関連産業等の国際物流拠点としても期待されています。

また、火力発電所の脱炭素化の拠点として、水電解による水素製造設備への取り組み、アンモニア混燃による脱炭素化の取り組みとしてプラント建設地の造成が進められていました。さらにアンモニアサプライチェーン(海外製造のアンモニアの受入・貯槽・供給の基地)構築に向けた検討も同時に進んでいました。木質バイオマス発電所は現在建設中で、2025 年 4 月には稼働するとの事でした。

5. まとめ・感想

バスによる視察の後、本社会議室での質疑のなかで、なぜウイスキー蒸留所が、苫東地域に立地することになったのか?との質問が有りました。



写真-2 質疑状況

ウイスキーの蒸留所と言えば、北海道だと余市のようなイメージで苫東地域をイメージできない感じがしていました。確かに苫小牧には、水道水から塩素を取り除いたボトルウォーター「とまチョップ水」があります。答えはその立地にあるとの事でした。ウイスキーの原料と製品の輸送は域内の高速道路、苫小牧港から直に輸送可能であること、そして何より顧客のバイヤーが空路千歳空港から 20 分で蒸留所に来て、品質確認できる事が最大の利点だそうです。確かに、苫東地域は陸海空の交通の要衝であります。大変勉強になりました。以上